# 集落再生だより

【6 集落全体版】 第３号 平成 31 年４月発行

**第３号では、各集落における平成30年度の取り組みのまとめとして、3月13日（水）に山河の館で開催した「むらづくり講演会・６集落活動報告会」の様子をご紹介します。**

## ① むらづくり講演会 住み継がれる集落をつくる ～復興から、地域づくりへ～

講演される熊本県立大学 柴田教授

「住み継がれる」とは、現在の住民が今後も住み続けられるかどうかと、次の世代に住み継がれるかどうかがある。「住む」のも、定住だけでなく、二地域居住、週末居住など、住まい方が多様化している。「継ぐ」のも、血縁で住み継ぐのが当たり前ではなくなっており、U ターン、孫ターン、X ターンなど、次の世代への様々な継ぎ方が出てきている。

県内の多くの集落でも、地震前から人口が減っていた中で、地震により急激に減ってしまった。「集落の限界化のプロセス」では、人口が減ることで、人の空洞化が起き、維持管理できない山林・畑・空き家が増えて土地の空洞化が起き、野焼きができなくなると言われている。

一方で、そこに住んでいなくても関わりがある人を、「関係人口」や「拡大コミュニティ」という。住んでいる人が減っても、集落とご縁を持っている人が質が高いことをすれば、活動の量や質は維持できて、それによって集落の機能は維持できるのではないか。

**次の世代に集落を住み継ぎ、新しい人にどう住んでもらうか。**今回の地震は、それを考えるきっかけに過ぎず、地震前からの課題である。集落点検をぜひ、やってみたらどうか。自治会とは別に、地域づくりを考える組織をつくるとよい。「ちょっとだけがんばること」が大切。無理をせず、身の丈に合った取り組みをする。地震により集落を出ている人のサポートをどうするかが大事。「誇りの空洞化」を起こさずに、笑顔があり、幸せに暮らしている地域が、住み継がれていくと思う。

## ② 視察報告 第１回：1月26日 五木村 第２回：2月16・17日 上毛町・玄界島

五木村では、村出身の女性が関係人口を増やす仕組みを作り、移住した若者が色々と頑張っていました。茶話菓子会（さわがし会）では、お母さん方が郷土料理づくりをしていました。

上毛町では、十数軒の集落で農家民泊や体験をしていて、皆さんが楽しんで暮らしている様子に惹かれて、若者が移住していました。
玄界島では、目標を立てて地域の皆さんが一致団結することが重要と教わりました。防災訓練を毎年行い、防災力を高めていました。

●発行：西原村役場 震災復興推進課 TEL 096-279-4417 FAX 096-279-3438

# ③ ６集落活動報告会

６集落で取り組んできた記録集や集落紹介冊子づくりについて、各集落の編集委員から発表されました。

## 布田地区

「布和里」は布田が和やかな里になるようにという意味を込めて、編集委員で情報を集め、「布和里暮らし2019年度版」を作りました。今後は、無理のない範囲で楽しみながら、「せからし会」を発足させたいです。

## 下小森地区

「再生」「再出発」という意味を込めてタイトルを「Re: しもごもり」にして、人を前面に出し、人が下小森の暮らしを案内する構成にしました。今後は、大学生ボランティアとの交流の場を広げたいと思います。

## 畑地区

自分自身が地区のルール、集落の歴史や文化を学ぶことができました。「見える化」につながり、地区の情報発信になります。今後は、地区全体の取り組みにして、全員でビジョンを共有していきたいと思います。

## 風当地区

若手座談会をきっかけに「がんばろう風当 若手の会」を結成し、色々と活動しています。集落を歩き回り、聞き取りを通じて、集落の行事や歴史をまとめました。地域の資源や人を活かしながら、風当に戻る人や新たに入る人を受け入れる活動を、無理なく楽しみ続けていきたいです。

畑地区・風当地区と神戸大学生で「畑・風当一周コースマップ」を作ったので、コースを歩いてもらい、地区の良さに触れてみてください。

## 大切畑地区

紙芝居風に、地震後の集落を絵で表現しました。今回の取り組みを通じて、10年後、20年後の大切畑の未来図を考えるようになりました。将来子どもたちが大切畑に戻ってきてもらえるようにしたいです。

## 古閑地区

古閑は非常に行事が多いので、リーフレット作成を通して、いいところは引き継ぎ、変えるべきところは変えていく必要があると感じました。気持ちの変化に着目し、震災発生時から現在までに至る「気持ちの年表」としてまとめました。まだ災害を経験していない他の地域でも、心の準備の参考にしてもらいたいと思います。